

あの時、そして明日へ。  
つながる国見町



平成23年3月11日。この日を境に私たちの暮らしが変わりました。次々と目の前に現れる苦難に、下を向いてしまうことがありました。でも、たくさんの「がんばれ」に助けられ、支えられながら、復興の光を探したこの10年。

これまでの時間が長かったのか、短かったのか……受け止め方は、それぞれだと思います。それでも自然は容赦してくれません。

2年前の秋には台風。そして今は、新型コロナウイルス感染症。これでもか、というほどの苛烈な試練のときが続きます。

10年前を経験している私たちだからこそ、今の状況を受け入れ、そして跳ね返す力があると信じます。未曾有の災害からの私たちの復興の歩みをしっかりと振り返り、未来へつなげます。

## CONTENTS

大震災 あの時 ……………	4
復旧復興 明日へ ……………	10
国見町応援大使からのメッセージ ……	23
未来へ <明日へつながる座談会> ……	26
10年後の自分へ メッセージ ……………	32

# 大震災 あの時

2011. 3.11

平成23年3月11日14時46分、マグニチュード9.0、国内観測史上最大規模の巨大地震が発生し、私たちの郷土を大きく揺らしました。震度6強を観測し、多くの家屋が倒壊し、道路は亀裂が入り、電気、水道、交通が止まりました。私たちの暮らしはあの中から一変しました。



① 倒壊した住宅(塚野目) ② 液状化により地上に飛び出したマンホール(藤田) ③ 崩れ落ちた石蔵(藤田) ④ 大きく崩れた道路(小坂峠)  
⑤ 倒れた壁と下敷きになった車(藤田) ⑥ 外壁などが崩れ落ちた店舗(藤田) ⑦ ベランダが外れ石造住宅を破壊(小坂) ⑧ 入口の柱が土台から外れたJR藤田駅 ⑨ 電柱が大きく倒れたJR東北新幹線 ⑩ 天井が落ちた役場庁舎3階議場 ⑪ 天井が落ち、机、書類などが散乱した役場庁舎1階 ⑫ 地震当日に備蓄食料のアルファ化米で炊き出しする町職員



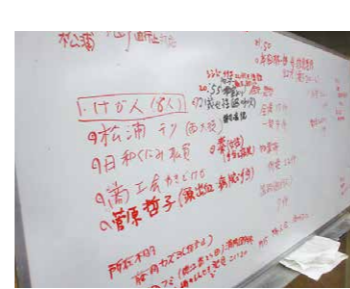
1 地震当日は真っ暗な中、多くの町民が観月台文化センター体育館へ避難 2 炊き出しする日赤奉仕団のみなさん 3 給油のためにガソリンスタンドまでできた行列 4 連日、水を求めて多くの人を訪れた給水所 5 断水のため県内・県外自治体からの支援を受けて給水(写真は島根県浜田市からきていただいた給水車) 6 避難所生活者のため医師が体調確認に訪問 7 多くの人が食料を求めコープマーケット国見店へ 8 役場庁舎が被災したため観月台文化センターに仮庁舎を置き事務を執行

震災当時、第5分団3部の部長をしていました。発生時農作業をしていた私は、家の様子を確認した後、屯所に集まった団員と手分けして被害の確認と一人暮らしの人たちの安否を確かめるべく活動を始めました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、物的な被害は甚大でした。大木戸地区の避難所になった大木戸ふれあいセンターを拠点とし、給水活動や避難者支援を行っていました。物資や

地域を守る使命と  
団員の結束を力に



国見町消防団 団長  
村上 信夫さん



被害状況などを記録したボード

情報が少ない中でも団員は早朝から出勤し、精力的に活動してくれました。何も無い中でも豊かな発想力、くじけない心の強さ、仲間を思いやるあたたかい心に勇気もらいながら活動したことが思い出されます。近年は一昨年の台風19号

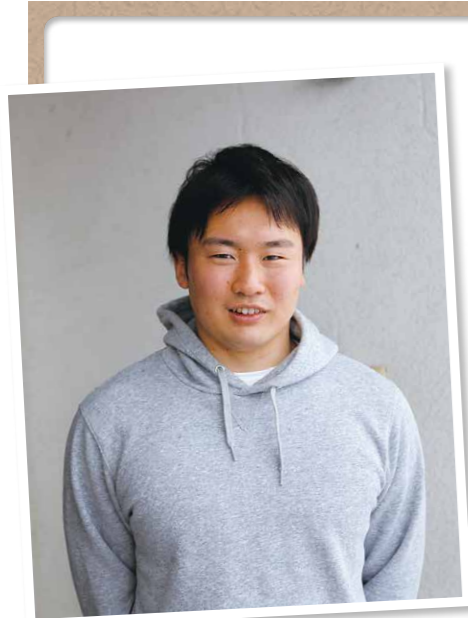


災害対策本部での打合わせ

を上げるまでもなく、毎年のように自然災害が起こっています。消防団はその中でも地域に根付いた活動や支援を行っています。町民のみならずには自分の故郷は自分たちで守ろうと日々努力している消防団にご理解とご支援をお願いいたします。そして団員には、日々の消防団の活動が、町民の安全・安心と自分たちの家族を守ることに寄与していることに自覚と誇りを持つてもらいたいと願っています。



1



あかい はた よしみ  
赤井畑 誼さん

東日本大震災当時、私は中学1年生でした。今まで経験したことのない災害への恐怖と不安を感じたことを10年たった今でも鮮明に思い出すことができます。当時、私は自分にできることは何かと考え、町のボランティアに参加することにしました。避難所に物資を運んだり、がれきを片づけたりと、中学生の自分のできることは微々たるものですが、「ありがとう」と言ってくくださる人の暖かさ

がうれしかったのが今でも心に残っています。震災から10年たった今、私が思うことは、このような経験を震災を経験したことのない人たちに伝えていくことが私たちの使命であるということだと思います。これが



仲間と片付けボランティアをした赤井畑さん(左)

### 自分にできることは何か



県北中学校校舎に貼られたメッセージ

らいつ東日本大震災のような大災害が来るかもしれない中で、大切な家族や友人を守るために、私たちの経験を生かすことは私たちにしかできないということをして読んでいただいている方々にも改めて認識していただければ幸いです。

原発事故について知った時は一瞬避難も考えました。しかし、子どもたちが大きくなって「ただいま」と帰れる場所を残しておきたいと思い、ここで暮らし続けることを決めました。



10年前の鈴木さんファミリー

### 穰さん

次男の陽太が体調を崩し、病院にいるときに地震がきました。妻と生まれたばかりの子どもが心配になり陽太を妻の実家に預け、バイクに乗り夢中で病院へ向かいました。病院へ着いて無事だった2人を見てホッとしたのを覚えています。

退院後は妻の両親に妻や子どもたちの世話をしてもらい本当に感謝しています。

### この故郷を子どもたちに残したい

#### 真梨子さん

3月11日午前中に伊達市内の病院で翔太を出産し、その日の午後、東日本大震災が起きました。看護師さんが息子を抱え外に避難し、私もその後、支えてもらいながら外に避難しました。生まれたばかりの翔太を抱え数時間そのままの車にいるしかなくとにかく寒かったです。病院は電気は通っていましたが断水となり、主人が何度か水を運んでくれました。退院するまでの2、3日はずっと不安でした。



すすき みのる 太輝くん ひなた しょうた 真梨子さん  
鈴木 穰さん



罹災証明書などの受付

### 仮設住宅に移り、前向きになれた家の再建

突然の大きな揺れで頭が真っ白になりながら祖母と2人で小雪が舞う中、外に

居たことを今でもハッキリと覚えています。家の中が散乱してしまい片付けをしていても度々の余震で作業も進まず、苛立ちや焦りやらのストレスから眠れない夜が続きました。そんな時に仮設住宅に入居することになって一安心しましたが、それでも初めての仮設生活や新しい場所での生活に対する不安は消えることがありませんでした。幸いにも家から近い仮設住宅だったので環境の変化が少なく、近隣の人たちにも恵まれてそれまでの不安が嘘のようでした。不安が無く



県内でもいち早く仮設住宅の建設がはじまった

なったことで考えも前向きになり、家の再建など一歩ずつ前に進むようになりました。あの震災から間もなく10年が過ぎようとしています。震災以降生活様式が変化していきました。そして今はコロナ禍でさらなる変化が求められています。それでも震災の経験を生かしていくことも前向きでいられるように努力していきたいです。

2013年  
(平成25年)

- 4月 くにみ幼稚園が開園
- 12月 除染や浄化センター汚泥の全量搬出などを強力に推進「東日本大震災復旧復興対策推進国見町民会議」を設置
- 11月 生産自粛となったあんぽ柿再開の祈りを込めた「パーシモンキャンドルパーティー」を藤田駅前で開催
- 9月 米の全量全袋検査を開始
- 8月 公共施設の除染作業を開始
- 5月 ホールボディ・カウンタによる検査を実施
- 4月 国見小学校が開校

2012年  
(平成24年)

- 3月 「3・11震災からの復興と希望の集い」を開催
- 12月 食をテーマとした復興イベント「国見おもしろ再発見！」を開催
- 8月 水田の吸収抑制対策を実施
- 7月 国見小学校が開校

2011年  
(平成23年)

- 3月 3月11日14時46分マグニチュード9.0巨大地震発生（東日本大震災）
- 県内でもいち早く仮設住宅の建設が進められた（町内4か所）
- 7月 学校の校庭などの表土除去を開始
- 8月 自家用農作物などの放射能検査を実施
- 12月 生産者による果樹木の表皮洗浄を実施
- 3月 町除染支援事業組合を設立

# 復旧復興 明日へ

2011 ▶ 2021



有限会社 佐久間工業  
会長 佐久間 友一さん

## これからも町のために協力していく

震災直後はまずライフラインの確保に奔走しました。自分たちが持っている機材を全部集めて発電機や仮設トイレを避難所に設置したり、建物倒壊や道路の陥没など危険箇所が多数あり通行止めの対応もしました。電話が使えなかったので町土木建設業協会員は毎日集まって打合せをしていました。

2日後にはマンホールが吹き上がり汚泥ポンプが必要になりました。近隣各所に問い合わせましたがなかなか見つからず、やっと見つかったのが神奈川県の子会社だったため緊急車両として高速道路を使い取りに行きました。水道はまだ止まっていて下水が上がるのが幸いでした。

仮置場が決まり除染作業にあたるため平成25年7月に町復興有限責任事業組合（平成24年3月に設立した町除染支援事業組合の後継）を町内16業者で組織しました。当時他県の除染作業員の悪い噂などもあったので町民のみなさんに安心してもらえるよう作業員は町内業者で身分証を必ず携帯させたり気を配りました。

振り返ればよくやってきたなというのが率直な感想です。これからも町のために私たちができることがあれば何でも協力していきたいと思います。



住宅の庭の除染作業



町除染支援事業組合設立総会



国見おもしろ再発見！



小学校で行われたホールボディ・カウンタによる検査



国見小学校が開校



廃棄する柿をキャンドルにした「パーシモンキャンドルパーティ」



急ピッチで進められた仮設住宅の建設



厳しい寒さの中、生産者自らが高圧洗浄機で果樹木の表皮を洗浄



東日本大震災復旧復興対策推進国見町民会議



食品の放射性物質を検査



出荷できずに廃棄される柿



こいけ ゆき 小池 由起さん

### 家族の健康が一番の願い

地震のあと、すぐには原発事故の情報がほとんどなかったの、子どものオムツが全然なくて小さい子ども2人を連れていろいろな場所を探しました。後でいろいろ情報がわかるにつれ、どうして外に連れ出してしまったんだろうと自責の念に駆られました。

それから子どもたちのために放射線に関する講演会を聞いたり、情報を得たりしました。

その中で北海道室蘭市の方から紹介してもらい室蘭市に親子3人で約1か月間一時避難をしました。子どもたちが体調を崩したり不安な日々を過ごしたことを今でも覚えています。

その後、国見町に戻りましたが心配性なこともあり、子どもをあまり外に出したりせず、長期休暇を利用して北海道で過ごす生活をしていました。下の子が甲状腺検査の結果が思わしくなかったこともあり不安でした。

しばらくして札幌市のボランティアの方から住み込みで働ける場所の紹介をいただき、平成26年の夏に札幌市に引っ越すことを決断しました。

実際に自分の車で札幌行きのフェリーに乗り込んだ時には涙が出ました。やはり自分の生まれた場所を離れることはつらかったんだと思います。

札幌では福島から来たという差別もなく周りの人にも恵まれました。3年間札幌で暮らしましたが、私の父が体調を崩したことや子どもが帰りたいと言ったことがきっかけで国見町に戻ることになりました。戻ってからもできる範囲で気をつけながら生活をしています。また以前



子どもたちはガラスパッチを携帯

は気づかなかった、星がきれいなことやのどかな雰囲気などこの町の良さを再認識しています。

避難したことや町に戻ってきたことに後悔はありません。父をはじめさまざまな人たちに支えられてきたので本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもみんなが健康でいられることが一番の願いで、私自身も長生きして将来孫の世話をしたいと思っています。



放射線に関する講演会

### 国見町の米、農業を守っていく

原発事故による農作物の影響は大きいものがありました。果樹は放射能の線量を下げるために真冬の寒い中、自分たちですべての樹木の枝を高圧洗浄機で洗浄しました。

稲は根から放射性物質を吸収するため、田んぼにケイ酸カリとゼオライトを散布し、深耕してから田植えをしました。地域ごとに班編成をして町内の水田全部の約500ヘクタールをやりました。当時は、とにかくやるしかありませんでした。

「本当にこれで大丈夫なのか、米はまた売れるようになるのか」と不安だったのを覚えています。それから毎年全量全袋検査をして出荷しましたが、今度は風評被害の問題でした。震災の前から福島県の推奨米で「天のつぶ」を試験的に作ってきました。ちょうどこの年から正式に販売がはじまるころでしたが、すべて振り出しに戻ってしまいました。

国見の米は本当にうまい。自信を持って出せる米です。しかし、売れずにほとんどが外食向けにまわりました。最近はやうやくおいしさで買ってもらえるようになり本当にうれしいです。

国見町の基幹産業は農業です。これからも道の駅を中心として農産物のPRをして風評被害をなくしていきたいです。



小坂アグリ株式会社 代表取締役 朽木 勝之さん



米の全量全袋検査



水田の吸収抑制対策

### 全国の自治体から国見町の復興のために応援職員が来てくれました



みやぎ しょうぞう 宮城 昭三さん

千葉県君津市総務部職員課 副主査  
平成25年4月～平成29年3月  
技術職員として道の駅国見あつかしの郷、役場庁舎の建設を担当



たなか よしひこ 田中 良彦さん

福岡県筑後市建設部上下水道課 主幹  
平成24年7月～9月  
土木関係の災害復旧を担当



にほんぎ まする 二本木 優さん

福岡県筑後市建設部上下水道課 主査  
平成24年4月～6月  
土木関係の災害復旧を担当



しまだ けいご 嶋田 圭悟さん

京都府京丹後市上下水道部普及推進料金課 主任  
平成23年10月～平成24年3月  
町税の減免などを担当



おおたて りゅみ 太田 輝美さん

岐阜県池田町水道部水道課 課長補佐  
平成23年9月～平成24年5月  
公共下水道の災害復旧を担当



まかべ けんじ 真壁 賢治さん

大阪府吹田市下水道部水循環室下水道総務課 主幹  
平成23年9月～平成24年6月  
公共下水道の災害復旧を担当



きただ せいじ 北田 誠治さん

三重県津市建設部津北工事事務所 主査  
平成23年8月～平成24年3月  
土木関係の災害復旧を担当



たかざわ しんや 高澤 伸弥さん

埼玉県都市整備部建築安全課 技師  
平成23年7月～8月  
罹災証明発行のための家屋の被害状況判定を担当



北海道栗山町のみなさん

北海道栗山町保健師4名、サポート職員4名  
平成23年5月～6月  
交代で被災した世帯の訪問健康相談や指導を担当



なかの まもる 永野 衛さん

千葉県柏市都市部建築指導課 建築技師  
平成23年4月～6月  
罹災証明発行のための家屋の被害状況判定を担当

※派遣当時の所属を記載しています。

2014年  
(平成26年)

2013年  
(平成25年)

11月 「森のおもちゃフェスティバル」&「ママによるママのためのママまつり in くにみ」を初開催

11月 「東京くにみ会」を東京で初開催

10月 「くにみ産業祭」を初開催

9月 第18回義経まつりで義経公行列が復活

8月 国見町応援大使三屋裕子さんを団長に「女性100人応援団ツアー in くにみ」を初開催。国見町の魅力を「口コミ」で発信

7月 町復興有限責任事業組合を設立

6月 住宅除染を開始。町内5方部の仮置場を町民会議で決定

12月 あんぼ柿が3年ぶりに一部出荷を開始

11月 「明日へ。復興・きずないルミネーション」を初開催

10月 震災後はじめて全町民を対象とした「総合防災訓練」を実施

9月 東北浄化センター保管汚泥全量搬出に向けた仮設汚泥乾燥施設に関する覚書を締結

8月 「国見ルネサンス（ふるさと祭）」を初開催

8月 「キッズ防災教室」を開催

7月 あんぼ柿の全面加工が再開

6月 新嘗祭で町産「天のつぶ」を献穀

5月 幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」を初開催。テーマは「きらきら笑顔！はばたけ翼！明るい未来へ！」

4月 小坂アグリ株式会社による子どもたちの稲刈り体験を初開催

3月 「奥州街道ど真ん中！春のフードフェスタ」を藤田商店街で初開催



森のおもちゃフェスティバル



子どもたちの稲刈り体験



ふるさとを思う気持ちを大切に「国見ルネサンス」



いざという時に備えて全町民を対象に総合防災訓練



女性100人応援団ツアー in くにみ



平泉ジュニア文化歴訪団と国見町の夏休みジュニア歴史探検隊の交流がスタート



第18回義経まつりで義経公行列が復活。町民の心の元気を取り戻し、心ひとつに「復興」へ



町の現状を知ってもらうために「東京くにみ会」を開催



町の農・商・工が集結「くにみ産業祭」



幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」



念願のあんぼ柿の全面加工が再開



くにみもたん広場オープン



明るい希望を灯したイルミネーション



ベーカリーサクマ  
佐久間 浩之さん

### 当たり前のことを当たり前、やさしいパンをつくり続ける

私の仕事場は道具や機械が多く、あの時激しい揺れに積んであるものがガタガタと床に落ち、火の付いたフライヤーから油がこぼれていました。不自然な静寂の中で、人の声と車のエンジン音だけが聞こえ、停電に気づきました。

数日して、町から学校給食用の炊飯器で避難所のご飯を炊いてほしいとの話があり、給水車が水を運んでくれたのでご飯の炊き出しをはじめました。1回に300人分の米をほんの少しの水で大切に洗い、炊いて運んで回収して容器を洗い、1日3回朝昼夕と毎日朝4時から夜12時までかかりました。1週間ほどすると少しずつ炊き出しの数も減っていき、3月末ころには終わりました。

水が復旧してから店でパンの販売も再開しましたが、在庫の材料でしか作れず、お客様が行列で待っているのに毎日すぐに売り切れてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。スーパーのパンが1日ごとに1.5倍の値段になっている話も聞きました。

あの春は桜の花を一度も見ないで散ってしまっていたことにあとで気づきました。

この国見町で25年間給食のパンを作り、36年間店でパンを焼いていますが、これからも自分のパンに合う材料を集め、当たり前のことを当たり前にして、やさしいパンができるように、パン屋の仕事を続けていきたいです。

私のパン屋に来ていただけるお客様にいつも感謝、感謝です。ありがとうございます。



2015年  
(平成27年)

2月

東北の町村で初めて「歴史的風致維持向上計画(通称・歴まち計画)」が認定

4月

旧小坂小学校をリニューアルした「小坂くらし館」がオープン。愛称は「こさかふるさと館」

東北浄化センター仮設汚泥乾燥施設が運転開始

5月

首都圏の女性に国見町の魅力を体験してもらう「くにみしゅらん」を初開催

役場新庁舎が開庁(被災3県で最速)

7月

「国見町合併60周年記念式典」を観月台文化センターで挙行

10月

桜の聖母短期大学生が考えた「モモスイーツ発表会」を開催。国見の特産品「もも大福」が誕生

12月

住宅除染が前倒しで終了

2016年  
(平成28年)

2月

町産献穀米「天のつぶ」を100%使用した国見町の新酒「あつかしさん」が完成

町内の小中学生と大学生が未来の理想の街を考えるワークショップ「未来の国見町をサイトシーイング」を開催

3月

木育推進「ウッドスタート宣言」

あの時から5年「東日本大震災を考える町民のつどい」を開催

国見の魅力を再発見「食の文化祭」を開催

4月

地域で支え合う介護予防事業「通いの場」スタート

8月

「ヤングカレッジ」廃校からの脱出ゲームを旧小坂小学校で開催

「旧小坂村産業組合石蔵」が国登録有形文化財に登録



モモスイーツ発表会



食の文化祭



国見町役場新庁舎



国見町合併60周年記念式典



「ヤングカレッジ～廃校からの脱出ゲーム～」



子どもたちに木の温もりを「ウッドスタート宣言」



「こさかふるさと館」オープン



新酒「あつかしさん」完成



子どもたちの描く未来予想図「未来の国見町をサイトシーイング」



町の歴史を後世へ「歴まち計画」が認定

### またみなさんと一緒に「完売！」を

6年ほど前、「くにみしゅらん」のリーダーとして品川女性起業家交流会の仲間たちと国見町を訪れました。その時の町役場や生産者のみなさんとの出会いは私の一生の宝になっています。東日本大震災からの復興やこれからの100年のまちづくりにかけるみなさんの熱心な姿に触れ、私たちはいっぺんで国見ファンとなりました。



NPO 品川女性起業家交流会  
事務局長 松田 陽子さん

東京でのあんぼ柿やモモの販売応援にも参加しました。「こんなにおいしい果物だから最後まで売り切りましょう」と私が言っても、最初はみなさんモジモジしていたのに、一昨年の年末には、農産物だけでなく「桃のハンドクリーム」まであっという間に全部売り切ってしまいました。国見町のキラキラの果物や野菜、そしてみなさんと一致団結する国見愛に出会え、本当に感激しました。

東京ではコロナ禍で心が折れそうな毎日ですが、またみなさんと一緒に「完売！」と言える日を楽しみにしています。



奥山家住宅で開催した「くにみしゅらん」



東京歌舞伎座木挽町広場で開催した「ふくしまくにみ物産展～くにみのおすそわけ～」

2019年  
(令和元年)

2019年  
(平成31年)

2018年  
(平成30年)

2017年  
(平成29年)

5月

新しい時代「令和」の幕開け

クラシック音楽をより身近に「ワンコインコンサート&アウトリーチ」初開催

3月

JR藤田駅が85年ぶりにリニューアル

11月

暮らしの中にある木の魅力・質の高さ・そして温もりを再発見「暮らしの中の木づかい展」を初開催

10月

暮らしたい町の姿をつくる「空想マルシェ」を初開催

9月

歴史公園整備に向けて「阿津賀志山防塁整備基本計画」を策定

6月

地域の居場所づくりに「くみにささえ愛」活動がスタート

4月

「くみにみ農業ビジネス訓練所」が開所

2月

国見産の木材でつくったオリジナルの木のおもちゃを誕生祝品として贈呈

10月

特別栽培米「くみにみ米」が誕生

5月

交流連携の核となる「道の駅国見あつかしの郷」がグランドオープン

1月

旧大木戸小学校をリニューアルした国見町文化財センター「あつかし歴史館」がオープン

12月

純米大吟醸「国見あつかしさん極(きわみ)」が完成

11月

石の町くみにみでお宝再発見「石工(ロック)フェスティバル」を初開催

9月

「ふくしまくにみ物産展」くみにみのおすそわけ」東京歌舞伎座木挽町広場で開催



おいでよ国見さん

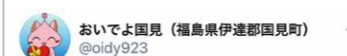
### Twitter で国見町を発信「国見においでよ！」

東日本大震災の大きな被害や復興に向けて歩む人々の姿を見た私は、自分も何か地域のための活動をしたと考えようになりました。そんな中「おいでよ〇〇」という名前地域を応援している人々の存在を知り「おいでよ国見」を始めてみようと思いました。

「おいでよ国見」の活動の目的は「国見町を知ってもらうこと」です。活動と言っても堅苦しいものではなく Twitter で何気ない会話をしている

だけですが、そこから国見に興味を持った方が国見を通った時にちょっと立ち寄ってみようと思ったり、お店で国見産のものを見かけた際に手に取ってみようと思ったりするきっかけになればいいなと思っています。また、外から見た国見の印象を町内みなさんにも知ってもらいたいという思いから、国見を訪れた感想や国見のものについての感想が投稿されていたら紹介するという事もしています。

この活動によって国見町のことを知る内外の人が増えていけば、それが国見町の元気に繋がっていくのではないかと、そういう思いを持ちながら「おいでよ国見」は今日もつづやっています。『国見においでよ!』



今日も寒かったね。この寒さがおさまって春になったら見に来て欲しいものを昨日に書いてもうひとつ。深山神社の大フジだよ。#おいでよ国見の風景



「おいでよ国見」のアカウントでTwitterから町のPR



国見のブランド米「くみにみ」



JR藤田駅がリニューアル



ワンコインコンサート&アウトリーチ



くみにささえ愛



くみにみ農業ビジネス訓練所が開所



誕生祝品「木のおもちゃ」



道の駅国見あつかしの郷 グランドオープン



地域から愛される学び舎へ「あつかし歴史館」オープン



空想マルシェ



石工(ロック)フェス in 石蔵



子ども議会

2021年 (平令和3年)

2020年 (令和2年)

2019年 (令和元年)

1月

全仮置場に保管している除去土壌などの中間貯蔵施設への輸送が完了

12月

阿津賀志山防塁下二重掘地区歴史公園の愛称が「あつかし千年公園」に決定

11月

くにみ自慢のグルメを食べ歩き「くに味(み)でまんぷく!ウォー食ラリー」を初開催  
引地町政スタート

10月

観月台文化センター図書室が国見町図書館としてオープン

9月

防災備蓄ゼリー(国見産リンゴ使用の読売巨人軍バージョン)を発売

8月

コロナ禍の中、夏の夜空に希望を灯した「光の祭典」を初開催。町内4か所で同時に花火を打ち上げ。さらに3か所で夏のイルミネーションを実施

1月

くにみ農業ビジネス訓練所で生産しているミニトマトが「JGAP」取得

10月

台風19号が直撃。堤防の越水及び破堤で床上床下浸水19戸、冠水エリア約100haの大被害。県北浄化センターが浸水で機能停止

9月

町の遊休施設をリノベーションした新たな交流拠点「アカリ」がオープン。若い起業家たち家守舎桃ノ音が管理運営

7月

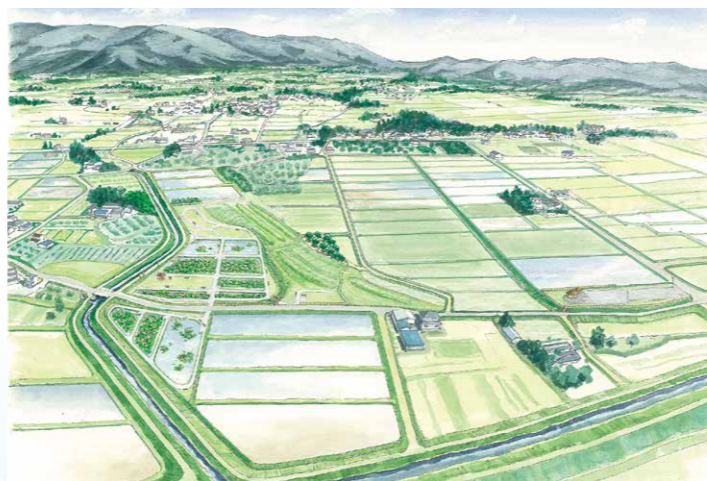
仙台圏で国見の魅力を発信「ふくしま国見Day」初開催やサンモール一番町・藤崎前でモモのPR販売

6月

「くにみ道の駅大交流フェスタ」を初開催



台風19号が直撃



あつかし千年公園 (イメージ図)



1日限定の天空カフェ「うっ茶屋」



仙台藤崎前でモモ PR 販売



遊休施設をリノベーションした「アカリ」がオープン



くにみ農業ビジネス訓練所のミニトマトが「JGAP」取得



国見町の名所や特産品など魅力をPRする各種パンフレット



夏の夜空に希望を灯す「光の祭典」



国見町図書館オープン



くに味でまんぷく!ウォー食ラリー



くにみ道の駅大交流フェスタ



防災備蓄ゼリー (読売巨人軍バージョン)

町のさまざまな人に出演してもらいながら国見町から元気や魅力を発信しようと「国見町ラヂオ課 ももたんFM」が平成24年5月25日からスタート。スタジオを役場仮庁舎2階(観月台文化センターホール)に設置し、毎週金曜日10時から生放送。

平成28年6月には役場新庁舎へスタジオを移して放送を開始。平成29年5月にはランドオープンした道の駅国見あつかしの郷のスタジオから国見町の魅力満載の情報を放送中!



ももたん FM



演歌歌手  
市川由紀乃さん

東日本大震災以降、福島演歌塾主催のコンサートを国見町で開催したことがきっかけで、国見町を訪れ演歌を通して国見町に元気を与えている。また、全国各地のコンサート会場などで国見町をPR。平成28年末の紅白歌合戦出場の際には、国見町でも大きな盛り上がりを見せた。

### いい歌をみなさんに届けたい

平成26年にキャンペーンで国見町を訪れました。当時はホールが仮庁舎だったので大研修室にステージを作って歌わせていただいたのを今でも鮮明に覚えています。

音楽の力や歌うことで少しでもみなさんの笑顔や元気を取り戻すことができたらの思いでしたが、逆にみなさんから私が元気をもらい、もっとがんばろうと思いました。

平成29年には道の駅国見あつかしの郷で1日駅長をさせていただきました。応援大使ということでみなさんにより親近感を持って声をかけていただき、自分で名付けたデザート「市川桃乃」「国見桃風」の商品化や直売所でとうもろこしのタイムセールをやったのはいい思い出です。

東日本大震災からもう10年、まだ10年なのかといろいろと考えさせられる10年かと思います。大きな壁にぶつかり苦しみや悲しみがあつたとしても、その先には大きな幸せや喜びがあると信じています。

みなさんいろいろな思いがあるかと思いますが、歌手としてこれからもいい歌をみなさんに届けていきたいと思っています。



平成29年6月に道の駅国見あつかしの郷で1日駅長を務めた市川さん



ジャズピアニスト  
木住野佳子さん

国見町観月台文化センターにあるピアノ「ベーゼンドルファー」を高く評価していただき、これまでに国見町でコンサートを多数開催。県北中学校吹奏楽部の生徒と一緒に演奏するなどの企画も考えてくださり、ピアノを通じて国見町を応援している。

### ベーゼンドルファーの歴史とともに歩めたことに感謝

美しい自然と景観、そして美味しいものに溢れている国見町ですが、何と云っても私にとって一番なのは観月台文化センターのホールとベーゼンドルファーというピアノです。

私は20年近く前から観月台文化センターでコンサートをさせていただいていますが、東日本大震災で傷ついていたこのピアノを震災の2年後に仮設住宅にいらっしゃるみなさんの前で演奏できた事は忘れられません。

その後、ホールの復活コンサートをさせていただいたのも大切な思い出になっています。

この観月台のベーゼンドルファーの歴史と共に歩んで来ることができた事に心から感謝の気持ちでいっぱいです。

未だ震災の復興にご尽力されている中、コロナという厳しい時代になってしまいましたが、また観月台のあの暖かく美しい音色のベーゼンドルファーを演奏できる日を楽しみにしています。



平成27年12月に観月台文化センターホールリニューアルオープンのコンサートで演奏する木住野さん

### 国見町を笑顔にしたい

震災当日私は事務所で仕事をしていました。突然の揺れに何もできず呆然としていました。

私たち商工会青年部は経営者の家に生まれた若者の集まりでそれぞれ家業があります。震災直後からそれぞれの家業に応じた復興作業に追われることになりました。

そんな中で商工会内では例年通りのイベント開催の是非が問われていました。しかし当時の青年部長の山崎敦さんが「こんな時だからこそ俺たちがやるしかないんだよ!」のひと言に反対する部員は一人もいませんでした。

内容を縮小させながらも手作りのように開催した夏祭り。小学5、6年生に希望の絵を描いてもらい商店街の街灯への掲示。そして国見町を代表するグルメを作ろうと開発した国見バーガー。みんな復興作業に追われながらも生まれ育った国見町のために必死に活動しました。



小学生のメッセージを掲示

震災から10年。私たち青年部は常に全力で走ってきました。そこにはいつも国見町を笑顔にしたいという思いから。

これからも私たちは全力で走り続けます。すべては「かけがえのない人たちとかけがえのない地域のために」



国見町商工会青年部長  
齋藤 仁志さん



国見バーガー

震災から半年が過ぎたころ、「この町を何とかしたい…」と商工会青年部が集まりました。「地元グルメを作っちゃおう」ということから誕生したのが「国見バーガー」です。

テレビに出たことから人気に火がついた総菜屋さんの「サバの味噌煮」。町で一軒、おいしいパン屋さんの「パン」。給食で味は保証済み。そして青年たちの「思い」から生まれた「国見バーガー」は、地元はもちろん、各地のイベントでも長い列ができる人気となりました。

その思いを引き継ぎ、現在は道の駅国見あつかしの郷の名物の一つとなっています。



ボーカリスト  
ふたり  
石崎 紀彦さん

東日本大震災の復興支援に向う途中、立ち寄った東北自動車道国見サービスエリアでの出来事をきっかけに、震災からの復興に向かう国見町を支援する曲「small cherry」を作り、平成23年に義経まつり会場で披露。以後、毎年義経まつりでのライブを開催し、国見町を音楽の力で元気づけている。

### 沢山の笑顔の花が咲きますように

東日本大震災から今年で10年。ここまでの道のりは、決して平坦ではなかったと思います。しかし、国見町のみなさんの強い気持ちが復興へと繋がりを一歩一歩、日常を取り戻しつつあると思います。ただあの日の悲しみは誰もが忘れることなくこれから後世へと語り継がれる一大事だと思います。「明けない夜は無い」という言葉があるように、必ず素敵な未来、子どもたちが笑顔で暮らせる町へと復興する事を心から願っております。現在は新型コロナウイルスの影響で平成23年以降、毎年、国見町へ歌を届け続けていましたが、その活動も行えずとても残念です。国見町を思い書いた「small cherry」がこれからも沢山のの方に聴いてもらえたらと思います。

そして、国見町のみなさんの笑顔やご声援は本当に温かく、逆に僕が勇気や希望をもらいました。本当にありがとうございます。

国見町のみなさんにこれからもずっとずっとエールを送り続けます。

そして、心から笑える日が続きますように。この春に沢山の笑顔の花が咲きますように。



平成25年3月に国見サービスエリアで歌うふたり



ミュージカル俳優  
沢木 順さん

町内のファンの方が中心となり、国見町でコンサートを開催したことを契機に毎年国見町でコンサートを開催。多くの人々にミュージカルの魅力を伝えている。東日本大震災の際には、全国各地のコンサート会場で国見町への義援金を募るなど、国見町を支援し、今も様々な支援をしている。

### 時薬 効き目確かな 10年間 皆で目指そう 完全復興

大震災から10年語り尽くせぬ困難に立ち向かい戦い抜いてこられた国見町の皆様に敬意を表します!!

ここまでのご苦労は並大抵のものではなかったと思います。

「さあ!! これから完全復興に向かって進んでいこう!!」

という時に新型コロナという新たな大敵が現れました。

本当に大変な時代になりました。

しかし今こそ歴史ある国見町の底力を発揮する時だと思います。

一昨年あつかし山の展望台から国見町を一望した時の感動は今も甦ります。

『日本にこれだけ素晴らしい町は他には無い!!』と思いました。

試練を乗り越えて素晴らしい国見町が世界一のユートピアになってくれると信じています。

私も国見町応援大使として微力ではございますが、精一杯頑張りたいと思います!!

今は飛んで行かれませんが鎌倉から常にエールを送っています。

フレーフレー!! 国見町!!

フレーフレー!! 国見町!!



平成23年9月に観月台体育館のステージで町民と歌う沢木さん



公益社団法人  
日本バスケットボール協会 会長  
三屋 裕子さん

平成25年、国見町応援ツアー団長として国見町を訪れ、以後、あらゆる機会の特産品のモモなどの農産物をはじめ町の魅力を多くの人々に発信。また、国見町で講演会やバレーボール教室を開催するなど、東日本大震災で復興に向かう国見町に元気を与えている。

### 震災前に戻らず、もっと先へ向かって

平成25年8月に初めて国見町を訪れた時には何の先入観もなく、素朴ですごくなつかしい商店街や何も遮るものがなく青空が広がる中尊寺ハス池、キラキラした若い農家さんが一生懸命に育てたモモ畑の光景を今でも鮮明に覚えています。

その時に今まで食べたことがないカリッとした甘いモモにとっても感動しました。

その後も何回か国見町を訪れたり、東京で農産物を販売するイベントを訪ねましたが、若い人たちがとてもキラキラしていていい表情をしていました。震災の前に戻すだけではなくもっと国見町を良くしていこうという意気込みを感じました。

住んでいる人にとっては当たり前でも外から見ると素晴らしいものが国見町にはいっぱいあると思います。ただ震災前に戻すだけではなく、これからもっと国見町が良くなるために自分たちに何ができるのかを考えていけばこの町にも負けない素晴らしい町になると思います。そんな夢をみんなで持ってもらいたいです。私はこれからもそんなキラキラした国見町のみなさんを応援していきます。



平成26年2月に県北中学校女子バレー部を指導する三屋さん



分とく山総料理長  
野崎 洋光さん

平成26年に国見町で食をテーマとした講演会を開催。また国見町の農産物を使ったおいしいレシピコンテストの審査委員長を務めるなど、国見町の農産物の素晴らしさを評価していただき広くPR。近年では町の農産物を使った減塩セミナーを開催。食を通して国見町を応援している。

### 牛の歩みの如く、ゆっくりと一歩ずつ

日々の暮らしの中で常に沢山の問題が山積していきます。

十年前の震災は今までとは比べものにならないほど、皆の心を震撼させました。復興の十年だったと思います。しかしみなさまはこの難局を乗り越えてきました。

地元学を振り返り、先人より伝えられた国見魂で、この町の復旧・復興に向け手を携え、町民がスクラムを組み、地の力(産物や人柄)を育ててきたからです。牛の歩みの如く、ゆっくりと一歩ずつ。

直ぐに結果が見える事ではありませんが、いつか振り返れば桃源郷となりえる町を作ってください。未来の人に誇れる、命の水・命の風・命の心が茂る国見町。

国見町は住みたくなる聖地です。



平成27年3月に食の安全安心講演実演会で講演する野崎さん

キラキラ  
収穫隊

モモ、リンゴ、あんぼ柿など果樹栽培を中心に取り組む若手農家。最高の品質を求め、日々研究とチャレンジを繰り返しています。震災後は風評払拭のため、積極的にPR事業に取り組み、くにみしゅらん、周遊ツアー、桜の聖母短期大学フィールドワーク、国見ホイスコーレなどの受け入れ、岩手県平泉町や首都圏でのPR販売にも取り組み、町特産品としての果樹のイメージアップを担っています。

国見  
ジュニア  
応援団 OB

自分たちにできることで風評被害の払拭に努めることを目的に、平成28年度から町事業として「国見ジュニア応援団」を結成。国見小学校高学年から県北中学校1年生の希望者で組織し、国見学の学習、震災と風評被害を学び、国見町の元気を県内外で発信しています。



左から引地真町長、鈴木花菜さん、佐藤圭将さん、佐藤惺弥さん、阿部郁さん、渋谷憲道さん、黒田壤さん

「明日へつながる座談会」

これからの私たち、これからの国見町について、キラキラ収穫隊と国見ジュニア応援団OB、そして引地真町長が座談会でそれぞれの思いを語りました。



引地 真 町長  
(ファシリテーター)

### 農業のいま

**町長** 震災の時の状況と農業を再スタートした時の思いを聞かせてください。

**渋谷** はしごの上でリンゴのせん定をしていた時で、この世の終わりのかと思いま



東京国際フォーラムでの「町イチ!村イチ!」でPR

した。その年のモモは1箱100円でした。衝撃だったのはモモが捨てられるということでした。国見サーブスエリアのゴミ箱にモモが捨てられていたという話も聞きました。秋にはあんぼ柿の生産が中止に。あんぼ柿農家は、東京電力の賠償用に捨てた柿を山積みにして、日付とキ口数を書いて撮影しなければならなかった。あの時は悲しかった。

**町長** 国見町は原発事故の影響で2年間あんぼ柿は作れませんでした。あんぼ柿農家でもある阿部さんはどうですか。価格は戻りましたか。

**阿部** 加工自粛の2年間で、山梨や長野の干し柿農家が干し柿の生産量を増やしました。今その影響で価格競争になっていたり、風評被害もあつたりで、震災前の価格よりもまだまだ低いです。生産量は100パーセントに回復しましたが、価格は70パーセントくらいです。



岐阜県池田町の「みの池田ふるさと祭」で町の特産品を紹介

**町長** 阿部さんは、震災のあつた年に農業を始めました。原発事故もあつたのに、迷いはありませんでしたか。

**阿部** 逆にそれがきっかけになりました。もう少し修行してからとも考えていたんですが、早く農家として国見のおいしい果物をみんなに届けたいと思いました。

**町長** 平成23年の冬から翌年の春先にかけて、果樹についた放射能を取るために、果樹を一本一本水で洗う洗浄作業がありました。渋谷さんも作業をしましたか。

**渋谷** 作業しました。一年の中で一番寒い時期に、鼻水が凍るような中での作業



**町長** 洗浄の時、国見町は水道課が管理している井戸の水を利用してもらいました。洗浄作業が始まって



佐藤 圭将さん

国見小学校6年生の時に国見ジュニア応援団で活動(平成30年度団員)。現在は県北中学校2年生で、バスケットボール部に所属。



鈴木 花菜さん

県北中学校1年生の時に国見ジュニア応援団で活動(平成28年度団員)。現在は福島高校2年生。卓球部に所属し、県大会へ出場している。

**佐藤(惺)** ニセコ町にPRで行ったときに毎年買っている人がいてうれしくなりました。

札幌の市場に行ったときには山形のモモは残っていて、福島のモモは完売だと聞いて感激しました。

**鈴木** ニセコ町でPR販売した時に、小さい子が試食のモモがよほどおいしかったのか、買ったモモをどうしてもその場で食べたいと

**佐藤(惺)** 自分の町のこと、国見町の魅力にあらためて気づけたり、他の地域の人の温かさや優しさに触れたりできたことです。

泣き出して。お父さんに皮をむいてもらって、食べさせてもらったときのその子、とても幸せそうな笑顔が忘れられません。とても感激しました。

**町長** ジュニア応援団の活動で、やってよかったと思うことはありましたか?

**佐藤(圭)** 国見町の魅力にあらためて気づけたり、他の地域の人の温かさや優しさに触れたりできたことです。

**佐藤(惺)** 自分の町のこと、国見町の魅力にあらためて気づけたり、他の地域の人の温かさや優しさに触れたりできたことです。

### ジュニア応援団のいま

**町長** ジュニア応援団の活動の中で一番印象に残っている活動はなんですか?

**佐藤(圭)** モモづくりの難しさや大切さを痛感しました。



黒田 穰さん

リンゴを中心にモモなどの果樹を栽培。大学卒業後実家の農業を手伝い、「葉とらずリンゴ」に取り組み、おいしさを探求。



**町長** ジュニア応援団だった3人にとって、10年後の国見町はどんなだったらいと思う。

**佐藤(圭)** 高齢化が進んで人口が少なくなっていく中で、活力ある町、元気な町



東京歌舞伎座木挽町広場で物産展



東京都羽村市の夏祭りでもモモのおいしさをPR



しげや のりみち 憲道さん

モモ、リンゴ、柿などの果樹を栽培。サラリーマンから転身し実家に入る。「おいしい」を求めて土づくりからこだわり、樹をデザインする。

**町長** 東日本大震災と原発事故の記憶は薄れていくけど、自分の中できちんと思い出出すことが大事なのかなと思う。これまでの10年を糧に、これからの10年の間に、ジュニア応援団だった3人には自分が思い描いている大人に、キラキラ収穫隊の3人には、自分が追いつきたい農業経営を実現してほしいと思います。

でいてほしいと思います。

**佐藤(惺)** 今のままのみんなが幸せな町でいてほしいです。

**鈴木** 若者が戻ってきたらと思える住みやすい町、人と人とのつながりが強い明るい町でいてほしいです。



くみしゅらんでモモの摘花体験

ジュニア応援団だった3人と話しながら、3人の夢がかないますようにと思いました。10年後にまた会いたいと思いました。そして、大人が子どもたちに残してやれるものは、体験を通してた教育だとも思いました。

国見町は、この10年、行政主導で復旧復興やまちづくりを進めてきたから、他の市町村よりも復旧と復興の進み具合は

学校の勉強も大事だけれど、それ以外の例えば、農業の大切さだったり、国見町の自然の素晴らしさだったり、お父さんやお母さんの一所懸命働く姿だったり、おじいちゃんやおばあちゃんとの底なしの優しさだったり……。これらのすべてを国見の子どもたちに教えることがとても大事なんだな。国見町全体で育んだ子どもたちが、いろんなところで活躍することこそ、誇りとすべきなのだろうなと思います。

早かったし、充実度も高かった。でも、これからの10年は、さまざまな人が、自由に意見を出し合ったり、逆に相手の意見を聞いて考えたりしながら、みんなが町の将来像を描いていくべきだと思います。みなさん、今日はありがとうございました。



**鈴木** 実際にPR販売をしてみても、あまり福島のみもとか国見のみもという偏見を持たずに試食してくれる、「おいしいから買おう」と言ってくれる人たちがたくさんいました。風評被害と言われるけれど、そればかりではないという現実を知ることができたことは勉強になりました。

**10年後の自分**

**町長** 10年後、みんなはどうなっているのか、教えてもらえますか。



**阿部** 10年後、国見町の農業はがらりと変わっていると思います。私たちの世代になっていっていると思います。そして、若い人たちが農業をしたいと思うように、自分たちが農業の楽しさと技術の向上、おいしさを極めて、国見町を全国に発信し

**佐藤(圭)** 僕はパソコンが好きで、将来は国見町のネットワーク環境を整える仕事をしたいです。情報電子系の大学へ進学し、国見に戻ってきたいです。

**佐藤(惺)** 僕は新幹線の運転士になりたいです。小さい時から鉄道が好きで、保育所の卒園アルバムにも書いてました。

**鈴木** 中学校の英語教師になりたいです。中学の時の担任の先生は尊敬できる先生で、勇気がなくて踏み出せなかった私を後押ししてくれました。中学時代の楽しかった思い出のきっかけはほとんどが先生です。私もそんな先生になりたいです。

**黒田** 中学や高校の頃は、将来、国見町にしようとは思っていません。あの頃は、どうしても家から出たくて北海道の大学へ進学しました。でも今は農業が天職だと思っています。

**10年後は、ようやく自分の農業ができる楽しみにしています。10歳以上の渋谷さんを目標にしたいと思っています。**

**渋谷** 10年後も今と変わらずに農業ができていたらいいな。天候が悪くてもおいしい果物を作ることができているような、そんな勉強をしています。私はおいしいものを届けているという自信がある

ていたいと思います。

**阿部 郁さん**

あんぼ柿生産を中心にモモなどの果樹を栽培。大震災を機に実家の農業を手伝う。果樹栽培の実践を父から学んでいる。



さとう せいや 惺弥さん

国見小学校6年生、東北中学校1年生の2年間、国見ジュニア応援団で活動(平成28年度、29年度)。現在は福島高校1年生。趣味は鉄道。

る。でも、情報の出し方を伝える努力が足りないかなとも思っています。国見の果物を食べていけば間違いないと思ってもらえる果物づくりをしていきたいです。食べてくれる人と生産者が顔の見える付き合いを続けたい。生産者の仲間を増やして、みんなでPRに出かけるときに自信をもって行けたらいいな。何より、キラキラ収穫隊とジュニア応援団と一緒に力を合わせ



北海道二セコ町でモモをPR



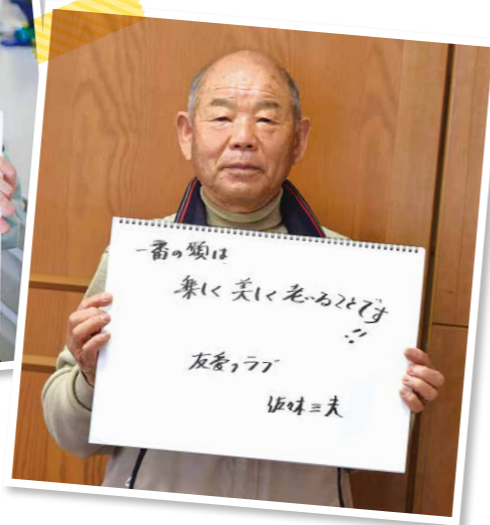
岩手県平泉町で国見の歴史を紹介



# 10年後の自分へ メッセージ



町民のみなさん、町内で働く  
みなさんに、10年後の自分へ向  
けたメッセージを聞きました。





東日本大震災のこの年、  
 37人の新しい命が生まれました。  
 今年で10歳をむかえます。  
 それぞれが復興の風の中で生まれ、  
 見守られています。  
 大きな風、小さな風、  
 さまざまな風に吹かれながら  
 大きく羽ばたき、  
 国見町に新しい光が  
 ふりそそぐことと思います。

この光が続くかぎり、  
 国見町の歩みは続きます。  
 未来を信じて、一歩ずつ、前へ……

